

消化管内科 医局のご案内 学生・研修医のみなさまへ

臨床の現場において腹部症状を訴える患者はとても多く、その診断・治療には高度な臨床能力が要求されます。当消化管内科では正確な診断能力と高度な診療技術を身に着けるため、専門のスタッフを擁立し安全で効率的な研修ができるよう体制を整えております。

現在我々消化管内科には教授以下 33 名の医師と、関連病院に勤務している医師 13 人の計 46 名の医師が在籍し、日夜、臨床、研究、教育に励んでおります。専修医（後期研修医）は、高度な医療技術と診断能力を身につけるため、1 年目においては、消化管グループ研修 6 か月、救急救命センターにて 3 か月、メディカルセンターにて 3 か月の研修を行います。2 年目においては消化管グループ研修を 1 年通じて行います。その後は、専門性の高い病院など希望にあった関連病院に赴任してさらに多くの経験を積みます。関連病院での勤務のち、大学病院に帰局し消化器内科医として必要な技術を身につけるべく医員助教として勤務、あるいは、大学院に入学し基礎医学分野の研究を行い、学位を取得するなど、自身のライフプランに合わせた選択が可能であり、一般市中病院にはない大学病院ならではの特徴があります。

その一方で、当院は大学病院でありながら、一般市中病院としての機能をかねそろえているためプライマリケアや救急治療などの充実した研修を行えるので将来についての様々な希望や可能性を実現することができます。

研修目標、年次計画

3 年次 胃透視検査、注腸検査の撮影と読影

上部消化管内視鏡検査、大腸内視鏡検査

イレウス管挿入などの基本的手技

腹部エコーの手技と診断

4 年次：内視鏡的消化管止血術、内視鏡的異物除去術

大腸ポリープ切除術、大腸ステント留置術、食道バルーン拡張術

5 年次：胃腫瘍、早期胃癌、大腸癌に対する内視鏡的粘膜切除術（EMR）、粘膜下層剥離術（ESD）、直腸カルチノイドに対する ESMR-L

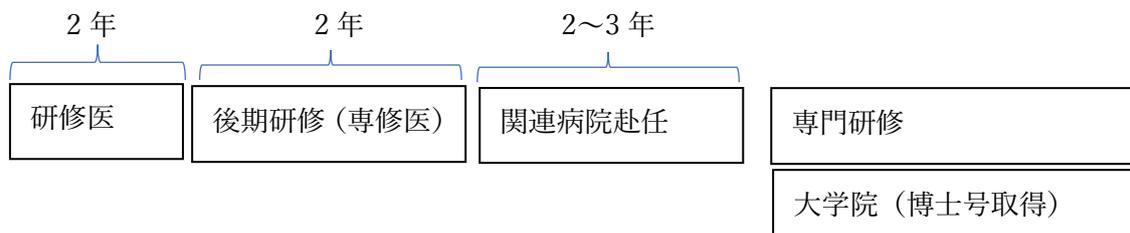
研修の現状

消化管グループ研修においては、1人の入院患者を4、5名の医師（専門医+専修医+初期研修医）で構成されたグループで受け持ちますので、単独で患者を診療することはありません。当直は平日1-2回/月、休日は0.5-1回/月程度の回数です。当然ですが、緊急時に備え昼夜問わず365日待機性を敷いているため、いかなる時も安心して当直することができます。一般病院では考えにくいことかもしれませんが、大学病院では、大学からの給料が一般水準に比べ低いため、週1日程度近隣の病院へアルバイトに行きます。アルバイトの内容は、外来診療、検査、入院患者の回診診察などさまざまです。こういったアルバイトの給料と大学からの給料を合わせますと、一般病院とほとんど同じ水準の年収になります。患者を4、5名の医師で受け持っているため、アルバイトや所用などで病院に不在の時間帯は、同じグループの他の医師が治療検査・回診などを行います。土曜は、グループ内の医師が交代で勤務待機しますので、事前に休日の予定を立てることもできますし、学会、研究会へも積極的に参加できます。このように、若い先生方のキャリアアップやリフレッシュをサポートするシステムになっております。また、当科には女性医師が15名在籍し、関連病院に5名赴任しております。そのうち8名は既婚者で、4名は育児をしながら勤務しています。また現在妊娠中の医師も複数名います。女性医師にとって医師としてキャリアアップを目指しながら家事や育児を両立することは本当に大変なことです。当医局におきましては、そういった状況に医局全体で協力するように努めております。急な事情による休暇、早退、業務の交代等も日常に支障なく行われております。時間的な融通が利くのも多数の医局員が在籍している賜物といえるでしょう。消化管内科は女性医師の仕事と家庭の両立を全面的に支援する女性に優しい医局であります。

取得できる資格

日本内科学会認定内科医、総合内科専門医。日本消化器病学会専門医、指導医。日本消化器内視鏡学会専門医、指導医。日本消化管学会専門医、指導医。日本肝臓病学会専門医、指導医。癌治療認定医、日本ヘリコバクター学会ピロリ菌感染症認定医、日本消化器がん検診学会認定医など多数

医師としてのライフプラン（例）



赴任病院（2023年6月現在）

- 名古屋市立大学東部医療センター 2名
- 名古屋市立大学西部医療センター 2名
- 旭ろうさい病院 2名
- 多治見市民病院 3名
- 成田記念病院 1名
- 蒲郡市民病院 1名
- 名古屋医療センター 1名
- 四日市羽津医療センター 2名
- みよし市民病院 1名

（文責：医局長 海老正秀）